



## JR東労組八王子地本 第27回定期委員会

2026年2月23日開催

## 委員会宣言

委員会宣言(案)

本日、JR東労組八王子地本は第27回定期委員会を八王子支部会議室にて開催し、2026JR総連春闘方針に基づきベア一律18,000円満額獲得に向けてたたかうことを確認した。またあらゆるハラスメントや不当労働行為を許さず、安全で安心して働ける職場をつくりだすためにたたかい抜くことも満場一致で確認した。

私たち八王子地本は「被害者が加害者にされた！JR東日本武蔵小金井駅暴行事件」の裁判支援闘争で組合員A君を最先頭で支え、共にたたかい抜いている。口頭弁論の当日にビラ配布行動を組合員と共に取り組み、事件を広く世間に訴えてきた。この事件を組合員だけでなく未加入者にも広めJR東労組の組織強化・拡大をつくり出し、最後まで共にたたかい抜いていく！

またJR東日本管内では様々な不当労働行為、ハラスメントが横行している。その中で大宮地本は第三者機関を活用したたたかいとして「埼玉県労働委員会への不当労働行為救済申立」と「さいたま地方裁判所への損害賠償請求」を行ってきた。経営体質を是正し、健全なJR東日本会社を実現するために立ち上がった大宮地本のたたかいは支援・連帯していく。未加入者が安心してJR東労組に結集できる環境をつくり出すため共にたたかい抜こう！

各職場では過半数代表者選挙が開催されている。JR東労組が過半数代表者として立つ意義について組合員との議論をつくり出してきた。委員会の発言でも過半数代表者の意義や職場での実践的な取り組みが語られている。過半数代表者選挙勝利に向けて最後まで諦めずに組合員一丸となってたたかい抜こう！

八王子地本管内の工務職場では組合員が命を落としかねない待避誤りが発生した。その背景には要員不足をはじめとした職場現実や、我々の事故に対する危機意識が足りず生み出してしまった現実がある。命を最大の価値基軸として「責任追及」ではなく「原因究明」の安全哲学を再確立し、安全で安心して働ける職場をJR東労組からつくり出していこう！

昨年5月に提案された「JR東日本グループのさらなる飛躍に向けた新たな組織と働き方について」八王子地本でも解明交渉を終えている。今後は職場へ過度な競争を持ち込ませず、社員間の分断を許さない施策とするため基本交渉を行っていく。組合員の声をもとに、職場で働く組合員への不利益を許さず、働きがいやモチベーションを向上できる施策となるように会社と議論を積み上げていく。

第51回衆議院議員選挙では自民党が単独で3分の2を超える議席を獲得した。高市首相は「憲法改正への挑戦」を明言し、憲法改正の早期発議に期待すると発言している。またスパイ防止法制定や国家情報局創設、安保関連三法案の前倒し改定など軍拡への動きが加速されていくことに危機感を持たなければならない。八王子地本は、平和で安心して暮らせる社会を実現するために、9条連をはじめとした連帯する仲間との輪を広げていく。

私たち八王子地本は、あらゆるハラスメントや不当労働行為を許さず、「安全・健康・ゆとり」ある職場風土を確立するため、組合員の声を基礎とした職場活動を通じて組織強化・拡大を実現し、「組合員のための八王子地本」をつくっていこう。

以上、宣言する。

2026年2月23日  
東日本旅客鉄道労働組合  
八王子地方本部  
第27回定期委員会



## JR東労組八王子地本 第27回定期委員会

2026年2月23日開催

### 特別決議

命を最大の価値基軸に、職場現実から安全を創り出し安全で安心して働ける  
健全な会社をめざす特別決議 ~~(案)~~

2025年9月14日中央線（西国分寺駅構内）列車進来中に線路横断した事象、2025年9月21日武蔵野線（府中本町駅構内）設備社員が汽笛吹鳴を受けた事象と立て続けに八王子地本管内で一步間違えば触車死亡事故になりかねない事象が発生した。府中本町駅での事象は、調査に必要な要員が確保されない状態で線路に立ち入り、列車見張員も作業に巻き込まれていた。基本ルールの徹底を会社は事あるごとに述べるが、必要な要員を確保して現場に立ち入るといったあたり前の行動が取れない状況にまで業務量に追われているという職場現実も工務座談会での組合員の声から明らかになった。また安全よりも仕事優先の職場現実に対し、「安全なくして労働なし」というJR東労組が築き上げてきた安全哲学を職場の隅々にまで定着させるたたかいが急務となっている。

JR東日本管内においては、1月16日に発生した山手線・京浜東北線の輸送障害をはじめとし大規模輸送障害を発生させ関東運輸局から警告書が発出する事態となった。またJR貨物では、21歳の組合員が入換作業中に落車し、両足を切断するという非常に痛ましい事故が発生した。会社の対策は、基本動作の徹底を現場に周知することに留まっており、会社は原因を究明する姿勢がないことが明らかである。受傷した組合員と家族、犠牲ってしまった組合員は今もお苦しみながら当時の状況を語り、二度と同じ事象を発生させないために前に進んでいる。

いま私たちは命を最大の価値基軸で安全を捉え返す時に立たされている。慣れた作業だから大丈夫という過信はないか、安全より運行優先に流されていないか、何より「命が奪われる・命を奪ってしまう」ことを想像して仕事をしていこう。今一度己を見つめ直し、何でも言い合える職場風土の構築やおかしいと思ったらおかしいと立ち向かう自分自身を確立していかなければ仲間の命やお客さまの命を守ることはできない。

会社の責任追及や対策ならざる対策では絶対に安全は守れず、真の対策は現場で働く私たちの声からしか生まれない。仲間と議論し対策を打ち出し、みんなで守る！原因究明議論を職場・地本が一体となってつくり出す決意である！

先輩方が職場からのたたかいでつくり上げた『安全の八王子』を継承し、命を守る安全風土を職場の隅々まで根付かせ命を守る職場風土を、職場を原点としたたたかいを押し進めていこう！JR東労組のたたかいを未加入者へ広め、共感をつくり出し組織拡大を勝ち取ろう！以上、決議する。

2026年2月23日  
東日本旅客鉄道労働組合  
八王子地方本部  
第27回定期委員会